

社会技術研究開発事業  
平成22年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」  
研究開発プロジェクト  
「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラ  
ム開発」

小泉 令三  
(福岡教育大学大学院教育学研究科 教授)

## 1. 研究開発プロジェクト名

犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発

## 2. 研究開発実施の要約

### ①研究開発目標

小中学生が犯罪の被害者や加害者にならないため、また非行少年の再犯防止のため、予防教育プログラム及び矯正教育プログラムを用いて、対人関係能力（情動的知性＝状況や他者の感情の理解，自分の感情の制御能力など）を高めることが有効であることを実証する。そのために、1)対人関係能力（情動的知性）を育成するための小・中学生用の社会性と情動の学習プログラム(SEL-8S：Social and Emotional Learning of 8 abilities at the School)を作成する，2)学校と家庭が連携して，SEL-8S学習プログラムを年間を通して実践する例を示す，3)矯正教育における有効な社会性と情動の学習プログラム（SEL-8D：Social and Emotional Learning of 8 abilities for Delinquency）を開発する，4)対人関係能力（情動的知性）の客観的な測定法を開発する，5)対人関係能力（情動的知性）の向上が，被害者・加害者にならないための自尊感情の育成，そして規範意識や規範行動の向上につながることを因果構造分析等で明らかにすることを達成目標とする。

### ②実施項目・内容

- A) SEL-8S学習プログラムの作成
- B) SEL-8S学習プログラムの実施と評価
- C) 犯罪・非行に関わる情動的知性（EI）概念の特定
- D) 再犯防止に有効なSEL-8D学習プログラムの開発
- E) 質問紙テスト（主観的自己評定法）の開発
- F) 能力テスト（客観的評価法）の開発

### ③主な結果

- ・ SEL-8S学習プログラムの学習ユニット（初版）の作成が終了した。
- ・ 本年度，SEL-8S学習プログラムを中学校1校および小学校2校で1年間実施した。その結果，規範意識，自尊感情，状況理解，危険予知などの項目で実施の効果が示された。
- ・ SEL-8D学習プログラム（再犯防止版SEL）の学習ユニットを作成した。
- ・ SEL-8D学習プログラムを児童自立支援施設で6ヶ月間試行した。その結果，自尊感情，自己感情の制御，問題解決，サポート希求の項目で実施の効果が示された。
- ・ 少年鑑別所において質問紙テスト，能力テスト等を実施し，犯罪・非行に関わるEI概念を調査した。この結果は，H23年度に検討し，SEL-8D学習プログラムの改良のために活用する。
- ・ 本年度，小中学校で実施した表情認知テスト(能力テスト)の調査結果に基づき，テストの改良を行った。具体的には，表情画像合成技術および項目反応理論を応用することで測定精度を上げ，さらに予備調査を行った上で使用する問題を厳選し，H23年度実施用のテストを作成した。
- ・ 本年度小中学校で実施した状況理解テストおよび危険予知テスト(いずれも能力テス

ト)の調査結果に基づき、改良を行った。具体的には、回答方法を自由記述方式から多肢選択方式に変え、さらに予備調査を行った上で使用する問題を厳選し、H23年度実施用のテストを作成した。

### 3. 研究開発実施の具体的内容

#### (1) 研究開発目標

小中学生が犯罪の被害者や加害者にならないため、また非行少年の再犯防止のため、予防教育プログラム及び矯正教育プログラムを用いて、対人関係能力（情動的知性＝状況や他者の感情の理解、自分の感情の制御能力など）を高めることが有効であることを実証する。そのために、1)対人関係能力（情動的知性）を育成するための小・中学生用の社会性と情動の学習プログラム(SEL-8S : Social and Emotional Learning of 8 abilities at the School)を作成する、2)学校と家庭が連携して、SEL-8S学習プログラムを年間を通して実践する例を示す、3)矯正教育における有効な社会性と情動の学習プログラム (SEL-8D : Social and Emotional Learning of 8 abilities for Delinquency) を開発する、4)対人関係能力（情動的知性）の客観的な測定法を開発する、5)対人関係能力（情動的知性）の向上が、被害者・加害者にならないための自尊感情の育成、そして規範意識や規範行動の向上につながることを因果構造分析等で明らかにすることを達成目標とする。

#### (2) 実施方法・実施内容

本年度の実施方法・実施内容は以下の通りである。

##### A) SEL-8S学習プログラムの作成

昨年度と同様に、本年度も計画にしたがって、犯罪・非行の被害・加害を予防するための小中学生版のSEL-8S学習プログラムを作成した(表1)。作成にあたって、8つの学習単元（基本的生活習慣、自己・他者への気づき・聞く、伝える、関係づくり、ストレスマネジメント、問題防止、環境変化への対処（中学生版では、進路）、ボランティア）を構成した。これらの学習単元は、SEL-8Sでねらいとする5つの基礎的な社会的能力（自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意思決定）と3つの応用的な社会的能力（生活上の問題防止のスキル、人生の重要事態に対処する能力、積極的・貢献的な奉仕活動）の育成をねらいとしており、全学習単元で8つの社会的能力全てに対応した構成になっている(表2)。

次に、小学生版は低・中・高学年ごと、中学生版は学年ごとに群分けし、各群の一つの学習単元に1～5つの学習ユニットを配置した。学習ユニットの作成にあたっては、国内外の心理教育プログラムの一部を参考にしながら、基本的にオリジナルの学習ユニットを作成するように努めた。また、携帯電話の問題や精神衛生に関する内容など近年問題となっているテーマを、該当する学習単元に取り入れるように心がけた。なお、中学生版のSEL-8S学習プログラムは、全39ユニットを計画していたが、学習ユニットを精選し全36ユニットに変更した。

表1 学習ユニットの作成計画

校種	学習ユニット群	学習ユニット数	年度別作成ユニット数 (計画)		
			H20年度	H21年度	H22年度
小学	低(1・2年)・中(3・4年)・高(5・6年)学年用の3つ	18ユニット×3群=54	10	25	19
中学	1・2・3年用の3つ	12ユニット×3群=36	0	25	11

表2 小学校における学習単元構成

学習単元		基本的な生活習慣	自己への気づき、他者への関心	伝える	関係づくり	マナジメメント	問題防止	対処	環境変化への対応	ボランティア
基礎的な社会的能力	a. 自己への気づき(self-awareness) 自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力		○			○		○		
	b. 他者への気づき(social awareness) 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことができるとともに、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力		○							○
	c. 自己のコントロール(self-management) 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力	○		○	○	○	○			
	d. 対人関係(relationship skills) 周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き、維持する力。ただし、悪い誘いは断り、意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力	○	○	○	○		○			
	e. 責任ある意思決定(responsible decision making) 関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力				○		○	○		
応用的な社会的能力	f. 生活上の問題防止のスキル(health-promotion and problem-prevention skills) アルコール・タバコ・薬物乱用防止、病気とけがの予防、性教育の成果を含めた健全な家庭生活、身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化、暴力やけんかの回避、精神衛生の促進などに必要なスキル						○			
	g. 人生の重要事態に対処する能力(coping skills and social support for transitions and crises) 中学校・高校進学への対処、緊張緩和や葛藤解消の方法、支援を求め方(サポート源の知識、アクセス方法)、家族内の大きな問題(例：両親の離婚や別居)や死別への対処などに関するスキル								○	
	h. 積極的、貢献的な奉仕活動(positive, contributory service) ボランティア精神の保持と育成、ボランティア活動(学級内、異学年間、地域社会での活動)への意欲と実践									○
授業数	低学年(合計18)	4	2	3	2	1	3	2	2	2
	中学年(合計18)	3	2	1	2	2	2	2	2	2
	高学年(合計18)	2	2	2	2	2	5	2	2	2

(注) ○は各学習単元において育成を図る主要な社会的能力を表す。

## B) SEL-8S学習プログラムの実施と評価

昨年度に教員研修や授業研究を行った実施校において、SEL-8S学習プログラムを実施した。なお、実施校は昨年度の計画より1校増え、中学校1校および小学校2校となった。

次に、SEL-8S学習プログラム実施の評価を行うために、プログラム実施前と実施後に質問紙テストと能力テストによる調査を行った。また、対人関係能力(情動的知性)や規範意識の全般的な発達傾向を調査するために、別の関係校にも同様の調査を実施した。

## C) 犯罪・非行に関わる情動的知性(EI)概念の特定

非行少年研究グループと測定技法研究グループが協同し、小倉少年鑑別支所において、非行少年の情動的知性(EI)に関するアセスメント(質問紙テスト及び能力テ

ト)を実施した。なお、質問紙テスト及び能力テストのうち、学校生活に関するテスト、また回答者への負担が大きいと判断したテストについては実施しなかった。

#### D) 再犯防止に有効なSEL-8D学習プログラムの開発

SEL学習プログラム研究グループが開発したSEL-8S学習プログラム（中学生版）をベースにし、再犯防止版SELであるSEL-8D学習プログラムを27ユニット作成した。この中から全体の流れやバランスを考慮して11ユニットを選定し、児童自立支援施設「福岡県立福岡学園」の入所児童6名（いずれも窃盗や暴力などの非行経歴を持つ小中学生）を対象に試行した（H22年10月開始～H23年3月終了、1回約1時間×全11回）。

またプログラムの実践効果を総合的に評価するために、プログラム試行前（H22年10月）と全ユニット試行後（H23年3月）で質問紙テストと能力テスト（いずれも一般小中学校で実施したもの）、また社会的スキルに関する質問紙も実施した。社会的スキルに関する質問紙については学園職員による児童の評定も行った。

#### E) 質問紙テスト（主観的自己評定法）の開発

昨年度に開発、改良した情動的知性(EI)質問紙、新たに開発したコーピング質問紙を、小・中学校の児童・生徒に対して実施し、SEL-8S学習プログラムの効果を測定した。また、犯罪・非行経験のある少年らに対しても実施し、非行に関連のあるEI概念の特定などのために用いた。

さらに、コーピング質問紙に関しては、本年度の調査結果に基づいて改良を加え、H23年度実施用の質問紙を作成した。具体的には、質問項目を厳選し12項目の中から9項目を選び出した。

#### F) 能力テスト（客観的評価法）の開発

昨年度に開発した子ども版の表情認知テスト、試作した状況理解能力テスト、危険予知テストの、3種類の能力テストを小・中学校の児童・生徒に対して実施し、SEL-8S学習プログラムの効果を客観的に測定した。また、犯罪・非行経験のある少年らに対してもこれらの能力テストを実施することで、非行に関連のあるEI概念の特定などのために用いた。

さらに、これら3テストに関して、本年度の調査結果に基づいて改良を加え、H23年度実施用の能力テストを作成した。具体的には、(3)研究開発結果・成果の部分で述べる。

### (3) 研究開発結果・成果

本年度の大きな成果は、1) SEL-8S学習プログラム（初版）作成の完了、2) 小中学校でのSEL-8S学習プログラムの実施と効果測定、3) 再犯防止に有効なSEL学習プログラム（SEL-8D）の開発、4) 児童自立支援施設でのSEL-8D学習プログラムの試行と効果測定、5) 来年度に向けた質問紙および能力テストの改良の5点であった。

以下、上記の項目ごとに成果の詳細をまとめる。

#### 1) SEL-8S学習プログラム（初版）作成の完了





<p style="text-align: right;">D5</p> <p style="text-align: center;">「携帯電話のマナー」プリント①</p> <p style="text-align: center;">年 組 番 氏名 _____</p> <p>◆掲示板・ホームページのマナー</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>★ヒロコの部屋★</b></p> <p style="text-align: center;">友だちいっぱい作りだいで ヨロシクね (^o^) v</p> <p>=====</p> <p>【あだ名】 「ヒロ」とか「ヒロコ」 山田ひろ子で、そのまま</p> <p>【性別】 女の子</p> <p>【年齢】 中3の14歳!!</p> <p>【職業】 広嶋中の3年生で〜す!</p> <p>【出身校】 広嶋小学校</p> <p>【彼氏、彼氏は?】 まん中が、彼氏のシンジくん☆ 左は、友だちのトモくん★</p>  <p>【ブログ】 10月22日 10:37</p>  <p>英語の授業が面白い... あっ!!! マリが寝てる〜〜〜かなりアサイク ウケる(笑)</p> </div> <p>(1) 左のホームページを見て、よくないところはどこでしょう。赤ペンでチェックして、その理由を書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid gray; height: 60px; width: 100%;"></div> <p>(2) 写真を載せられているマリさんだったら、どんな気持ちになりますか。</p> <div style="border: 1px solid gray; height: 60px; width: 100%;"></div> <p>◆今日の学習の感想</p> <div style="border: 1px solid gray; height: 60px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right;">3</p>	<p style="text-align: right;">D5</p> <p style="text-align: center;">「携帯電話のマナー」プリント②</p> <p style="text-align: center;">年 組 番 氏名 _____</p> <p>家の人と話し合って、「我が家のケータイ・ルール」を決めましょう。携帯電話の使い方について、使う時間や時間帯、使う場所、携帯電話を使うにあたっての約束など、それぞれの家庭で決めているルールを書いてください。ルールを決めていないご家庭でも、この機会にルールを考えてください。</p> <p>(例) 10 時以降は携帯電話を使いません。インターネットはリビングで使います。困ったことがあったらすぐに相談します。1日1時間以上勉強します(しない場合は、没収)。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">～我が家のケータイ・ルール～</p> <p>その一、 _____</p> <p>その二、 _____</p> <p>その三、 _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: right;">名前 _____</p> </div> <p style="text-align: right;">4</p>
--	---

図2 作成した学習ユニット「携帯電話のマナー」の学習プリント

## 2) 小中学校でのSEL-8S学習プログラムの実施と効果測定

### 【SEL-8S学習プログラムの事前準備と実施】

まず、SEL-8S学習プログラム実施前(4~6月)のデータを用いて、本プロジェクトで育成する対人関係能力(情動的知性)が、犯罪の被害や加害防止において重要な要因と考えられる自尊感情や規範行動に及ぼす影響について、因果構造分析による仮説モデルの検討を行った。

その結果を、図3、図4に示す。小・中学生ともに、情動的知性の各因子から自尊感情へのパス(影響力)、自尊感情から規範行動の各因子へのパスが有意であった。また、情動的知性から規範行動へのパス(例えば、小学生では自己感情の表現から規範向上、中学生では他者感情の認知から規範遵守など)が有意であった。

以上のことから、一時点での調査にもとづく分析であるが、情動的知性が直接または間接的に規範行動を高める要因であることが明らかとなり、情動的知性の向上が自尊感情の育成や規範行動の向上につながるという本プロジェクトの仮説モデルが統計的に確かめられた。これによって、自尊感情や規範行動の向上において、情動的知性の育成をねらいとした取り組みの重要性が確認されたため、当初の計画通り、SEL-8S学習プログラムを実施することとした。

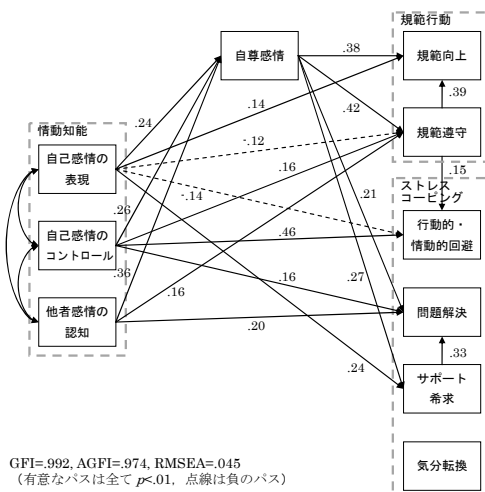


図3 規範行動との関連 (小学生)

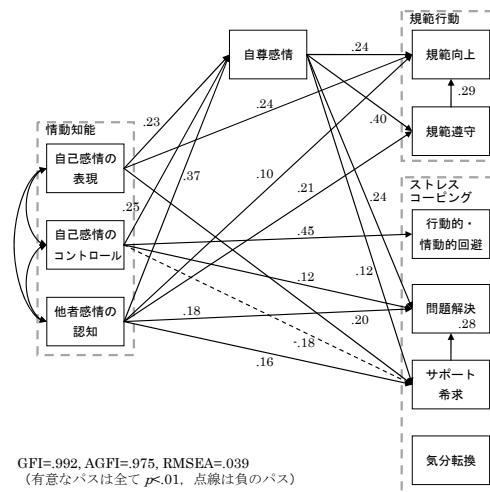


図4 規範行動との関連 (中学生)

本年度の実施に向けては、昨年度からSEL-8S学習プログラム実施校との協議・研修を行い、本年度の教育課程にSEL-8S学習プログラムを位置づけていた。本年度、その計画に従って授業が実施された。

実施期間中は、可能な限りプロジェクトメンバーが授業を観察し、その都度授業のふり返りを行ってSEL-8S学習プログラムについての理解を深めた。また、授業後に研修会を開いて、教員同士の共通理解を図ったりできる機会を設けた。さらに、夏休みに研修会を開き、事前調査の結果を元に、夏休み明けの実施に向けた改善や修正の必要性について話し合った。

【効果測定のための調査内容】

本年度測定した調査内容を説明する。調査で使用した質問紙テストや能力テストについては、昨年度に作成・改良したものである。各調査内容は、以下の通りである。

●規範意識質問紙の概要

20項目の質問項目で構成しており、各質問項目(例：あなたは、自分の身の回りの整理・整頓を、きちんとしていますか。)に対して、“いつもしている” “だいたいしている” “あまりしていない” “まったくしていない” の4段階尺度で回答を求めた。

なお、規範意識は“規範遵守 (集団を乱さないようにルールや約束を守ろうとする意識)” “規範向上 (集団に積極的に関わり、協力して助け合おうとする意識)” の2側面を測定している。

●自尊感情質問紙の概要

10項目の質問項目で構成しており、各質問項目(例：わたしは、人の役に立てたとき、うれしく思う。)に対して、“あてはまる” “ややあてはまる” “ややあてはまらない” “あてはまらない” の4段階尺度で回答を求めた。

●対人関係能力（情動的知性：EI）質問紙の概要

12項目の質問項目で構成しており、各質問項目(例：あなたは、イライラして友達や家族にあたってしまうことがありますか)に対して、“はい” “どちらかといえば、はい” “どちらかといえば、いいえ” “いいえ” の4段階尺度で回答を求めた。

なお、情動的知性は“他者感情の認知（どれだけ、相手の気持ちを理解できるか）” “自己感情の制御（どれだけ、自分の気持ちをコントロールできるか）” “自己感情の表現（どれだけ、自分の気持ちを表現できるか）” の3側面を測定している。

●コーピング質問紙の概要

12項目の質問項目で構成しており、各質問項目(例：（ストレスを感じた時）人に相談する)に対して、“よくする” から“まったくしない” まで4段階尺度で回答を求めた。

なお、コーピングは、“問題解決（ストレスの原因、問題を解決しようとする）” “サポート希求（誰かに相談など助けを求める）” “気分転換（気晴らしをする）” の3側面を測定している。

●表情認知テストの概要

本年度は以下の図5,6のとおり、2種類の課題で構成した。表情写真から感情名を回答する課題（課題1（男児顔使用）および2（女児顔））と、感情名から表情写真を選択する課題（課題3（男児顔）および4（女児顔））の2種類である。結果は、制限時間30秒間内の正答数（課題1から4の平均）で示される。

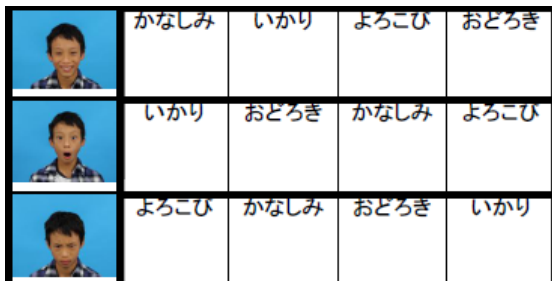


図5 課題1(男児顔使用)の例



図6 課題3(男児顔)の例

●状況理解テストの概要

本年度は以下の図7のとおり、各問題に対して制限時間内に自由記述で回答を行う。結果は、基準に合った回答をしている場合に得点を加算した。具体的には、問題の登場人物の感情を回答する“感情理解”，その感情を生むに至った背景、状況について回答する“状況理解” の2つが測定される。

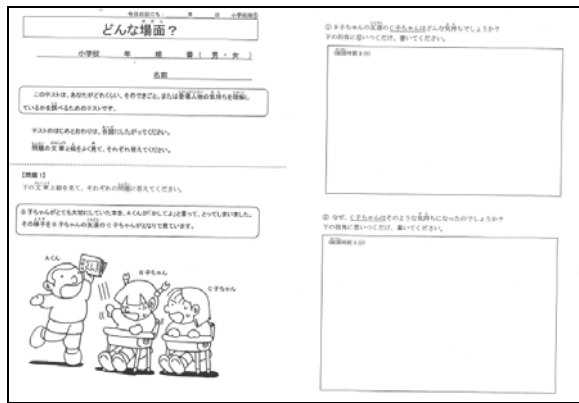


図7 本年度実施の状況理解テストの例

●危険予知テストの概要

本年度は以下の図8のとおり課題で構成された。各問題に対して制限時間内に自由記述で回答を行う。結果は、基準に合った回答をしている場合に得点を加算した。具体的には、問題の写真から予測される危険を回答する“危険予知”，その危険に対する対処法を回答する“対処方略”の2つが測定される。



図8 本年度実施の危険予知テストの例

【小中学校におけるSEL-8S学習プログラムの効果測定】

SEL-8S学習プログラム実施校（以下、SEL-8S実施校）および未実施の関係校（以下、統制校）において、プログラムの実施前4~6月（以下、事前）と、実施後の12月（以下、事後）の2回、上記の質問紙テストと能力テストを実施した。加えて、児童・生徒の規範意識と対人関係能力（情動的知性）については、SEL-8S実施校および統制校において、教師による評定を実施した。

以下に、SEL-8S実施校および統制校について、学年別に事後の得点から事前の得点を引いた変化量（=学習効果、事前から事後にどれだけ変化したか）の結果を示す。プラス方向への変化は上昇を表し、マイナス方向への変化は低下を表す。

●規範意識（教師評定）の結果（図9）

統計的検定の結果、小学2～4年生、中学3年生の規範遵守および規範向上、小学1年生、小学6年生の規範向上において、SEL-8S実施校のプラス方向への変化が示され、規範意識の学習効果が示された。また、中学1年生の規範向上において、統制校のマイナス方向への変化が示され、SEL-8S実施校の規範意識の維持が明らかとなった。一方、中学2年生の規範向上においては、統制校のプラス方向への変化が示され、SEL-8S実施校の変化は示されなかった。表3に結果のまとめを示す。

表3 規範意識（教師評定）の結果まとめ

	規範遵守	規範向上
小1		○
小2	○	○
小3	○	○
小4	○	○
小5		
小6		○
中1		○
中2		×
中3	○	○

※「○」はポジティブな結果，  
 「×」はネガティブな結果を表す。

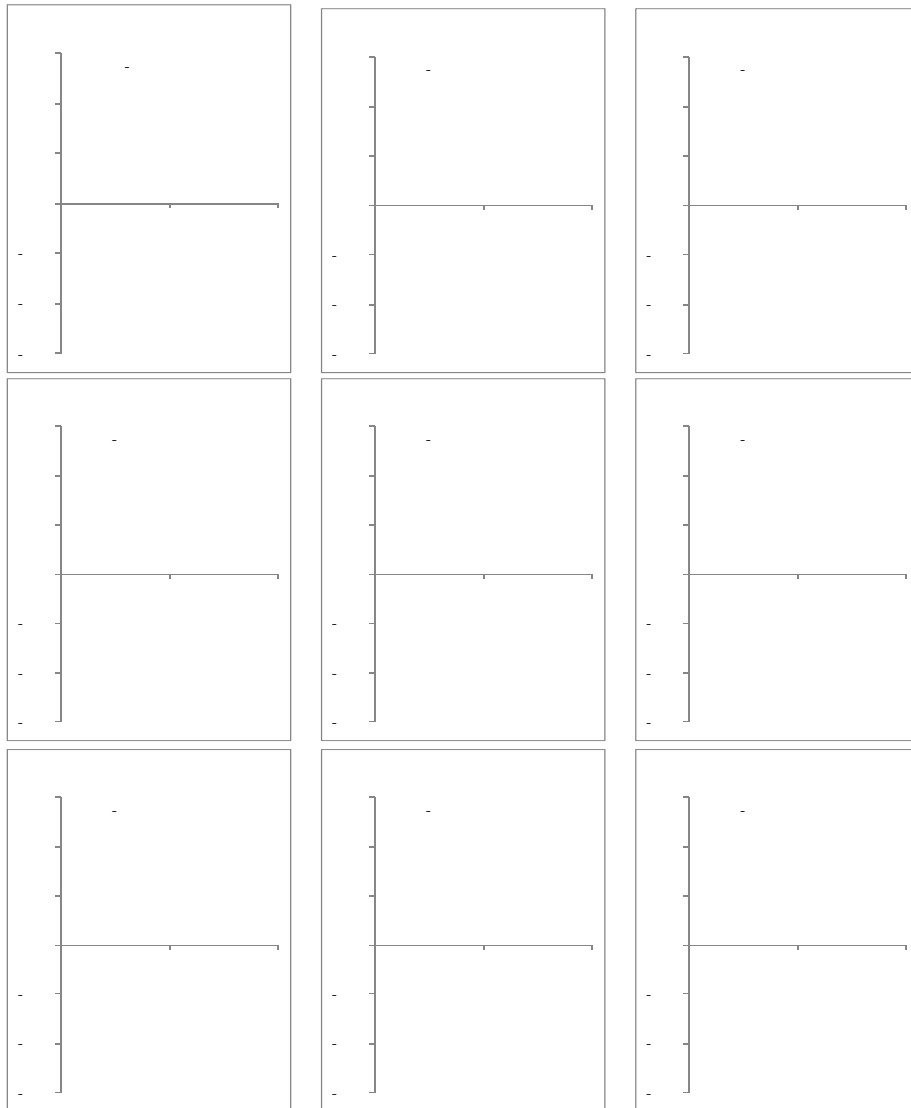


図9 学年別の規範意識（教師評定）下位尺度得点の変化量

●対人関係能力（教師評定）の結果（図10）

統計的検定の結果，小学1年生の自己感情の表現，小学2年生の他者感情の認知および自己感情の表現，小学4年生と中学2，3年生の他者感情の認知と自己感情の制御，小学6年生の他者感情の認知，自己感情の制御および自己感情の表現において，SEL-8S実施校のプラス方向への変化が示され，対人関係能力の学習効果が示された。一方，中学1年生の自己感情の制御および自己感情の表現において，統制校のプラス方向への変化が示され，SEL-8S実施校の変化は示されなかった。表4に結果のまとめを示す。

表4 対人関係能力（教師評定）の結果まとめ

	他者感情の認知	自己感情の制御	自己感情の表現
小1		○	
小2	○		○
小3			
小4	○	○	
小5		×	×
小6	○	○	○
中1		×	×
中2	○	○	
中3	○	○	

※「○」はポジティブな結果，  
 「×」はネガティブな結果を表す。

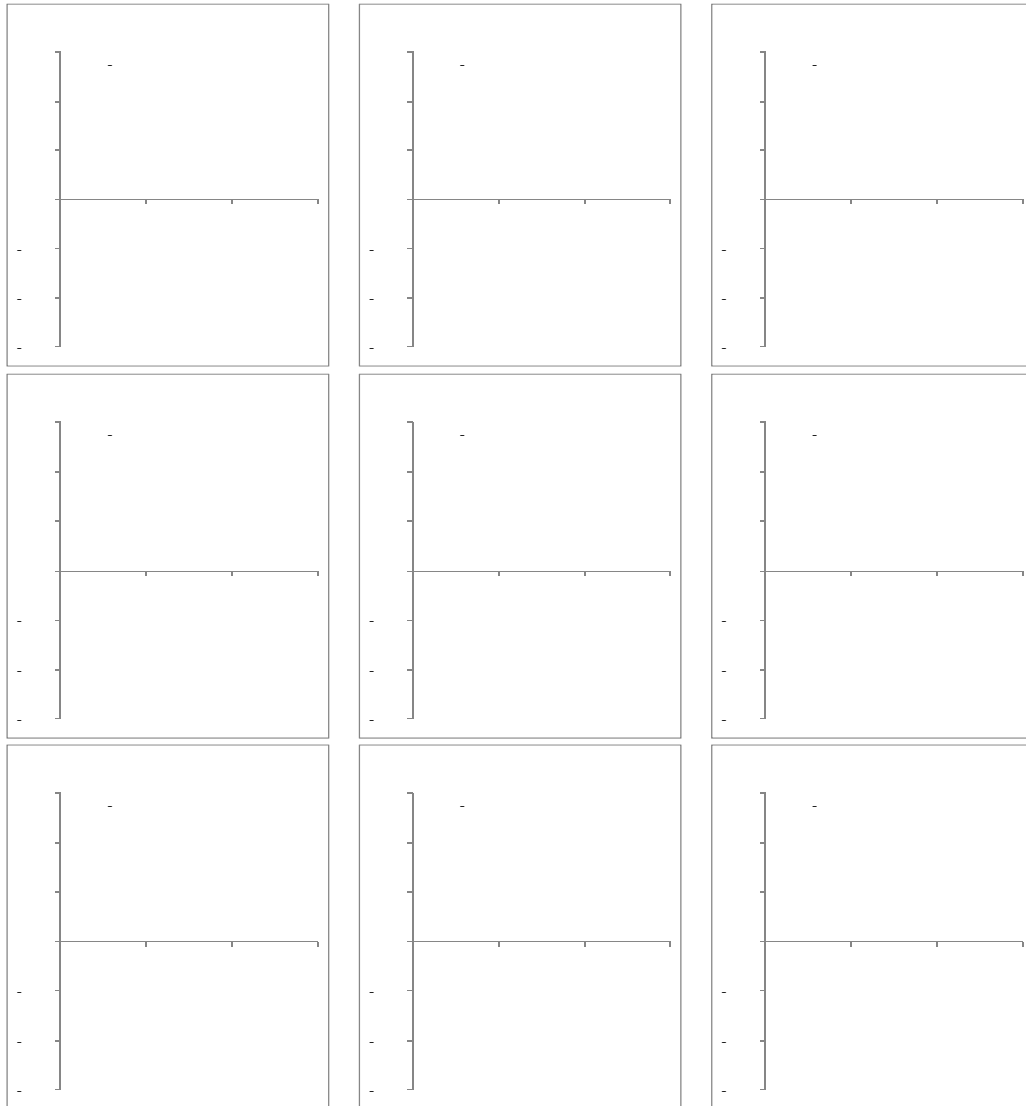


図10 学年別の対人関係能力（教師評定）下位尺度得点の変化量

●規範意識質問紙（自己評定）の結果（図11）

統計的検定の結果、小学3年生の規範遵守および規範向上、小学4年生の規範遵守において、統制校のマイナス方向への変化に対して、SEL-8S実施校では変化がなく、規範意識の維持が明らかとなった。また、小学4年生と小学6年生の規範向上、小学5年生の規範遵守および規範向上、中学2年生の規範遵守において、SEL-8S実施校のプラス方向への変化が示され、規範意識の高まりが明らかとなった。一方、中学3年生では規範遵守及び規範向上において、統制校のプラス方向への変化が示され、SEL-8S実施校の変化は示されなかった。結果のまとめを表5に示す。

表5 規範意識（自己評定）の結果まとめ

	規範遵守	規範向上
小3	○	○
小4	○	○
小5	○	○
小6		○
中1		
中2	○	
中3	×	×

※「○」はポジティブな結果，  
「×」はネガティブな結果を表す。

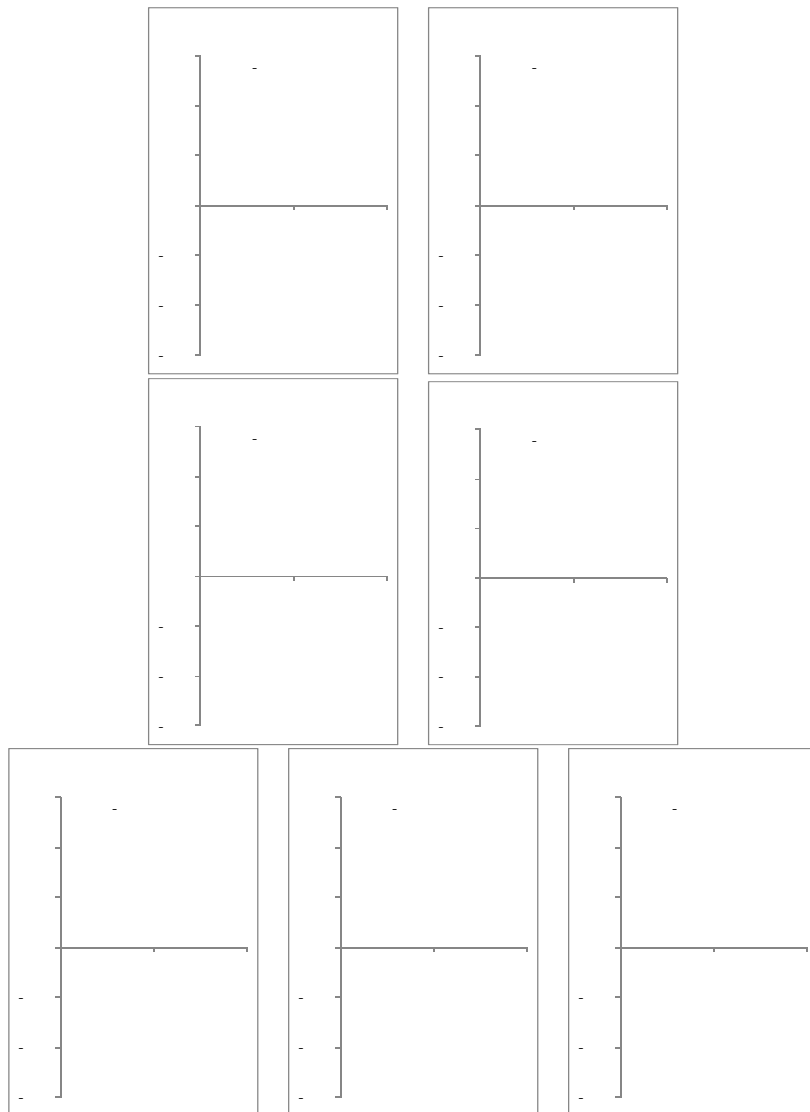


図11 学年別の規範意識（自己評定）下位尺度得点の変化量

●自尊感情質問紙（自己評定）の結果（図12）

統計的検定の結果，小学5年生においては，統制校に比べてSEL-8S実施校のマイナス方向への変化が少ないことが示された。小学6年生においては，統制校に比べてSEL-8S実施校のプラス方向への変化が大きいことが示された。中学1年生では，統制校に比べてSEL-8S実施校のマイナス方向への変化が大きいことが示された。中学3年生では，SEL-8S実施校よりも統制校のプラス方向への変化が大きいことが示された。

すなわち，SEL-8S実施校において，小学5年生では自尊感情の低下が抑制され，小学6年生では自尊感情が高まったことが明らかとなった。一方，中学1年生では自尊感情の低下，中学3年生では自尊感情の高まりが見られなかったことが明らかとなった。結果のまとめを表6に示す。

表6 自尊感情（自己評定）の結果まとめ

	自尊感情
小3	
小4	
小5	○
小6	○
中1	×
中2	
中3	×

※「○」はポジティブな結果，「×」はネガティブな結果を表す。

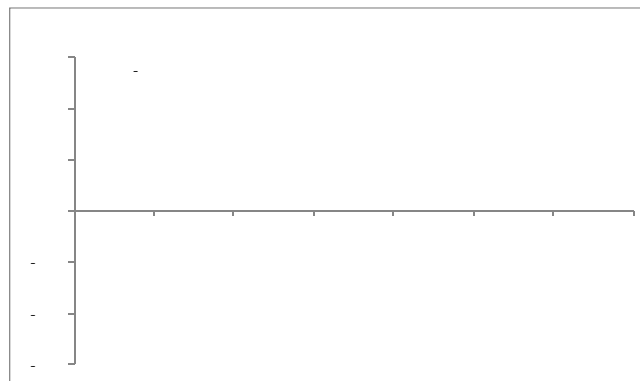


図12 学年別の自尊感情（自己評定）の変化量

●対人関係能力（情動的知性：EI）質問紙（自己評定）の結果（図13）

統計的検定の結果、ほとんどの学年において、SEL-8S実施校と統制校の間の変化量に違いは見られなかった。EIには、SEL-8S学習プログラムの効果が見られなかったといえる。表7に結果のまとめを示す。

表7 対人関係能力（自己評定）の結果まとめ

	他者感情の認知	自己感情の制御	自己感情の表現
小3			
小4			
小5			
小6			
中1			
中2			
中3	×		

※「○」はポジティブな結果，  
 「×」はネガティブな結果を表す。

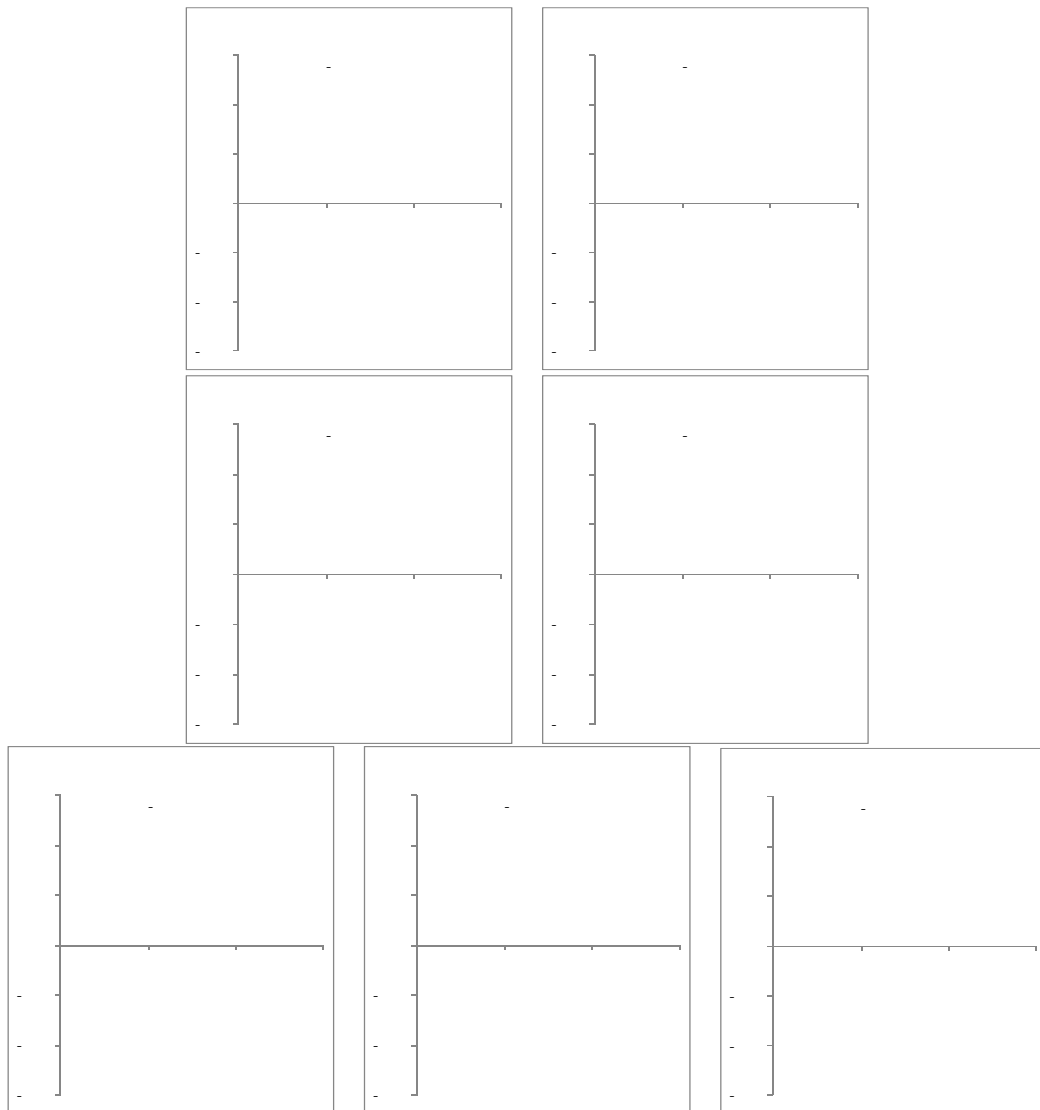


図13 学年別の対人関係能力（自己評定）下位尺度得点の変化量

●コーピング質問紙（自己評定）の結果（図14）

統計的検定の結果、小5ではSEL-8S学習プログラム実施により、よりサポート希求のコーピングを使用するようになることが明らかになった。しかし、小3、小6、中1、中3では逆に、統制校の方がより主にサポート希求のコーピングを使用するようになっている。気分転換においても、小3と小6において、同様の結果が得られている。結果のまとめを表8に示す。

表8 コーピング（自己評定）の結果のまとめ

	問題解決	サポート希求	気分転換
小3		×	×
小4			
小5		○	
小6		×	
中1		×	
中2			
中3		×	×

※「○」はポジティブな結果、「×」はネガティブな結果を表す。

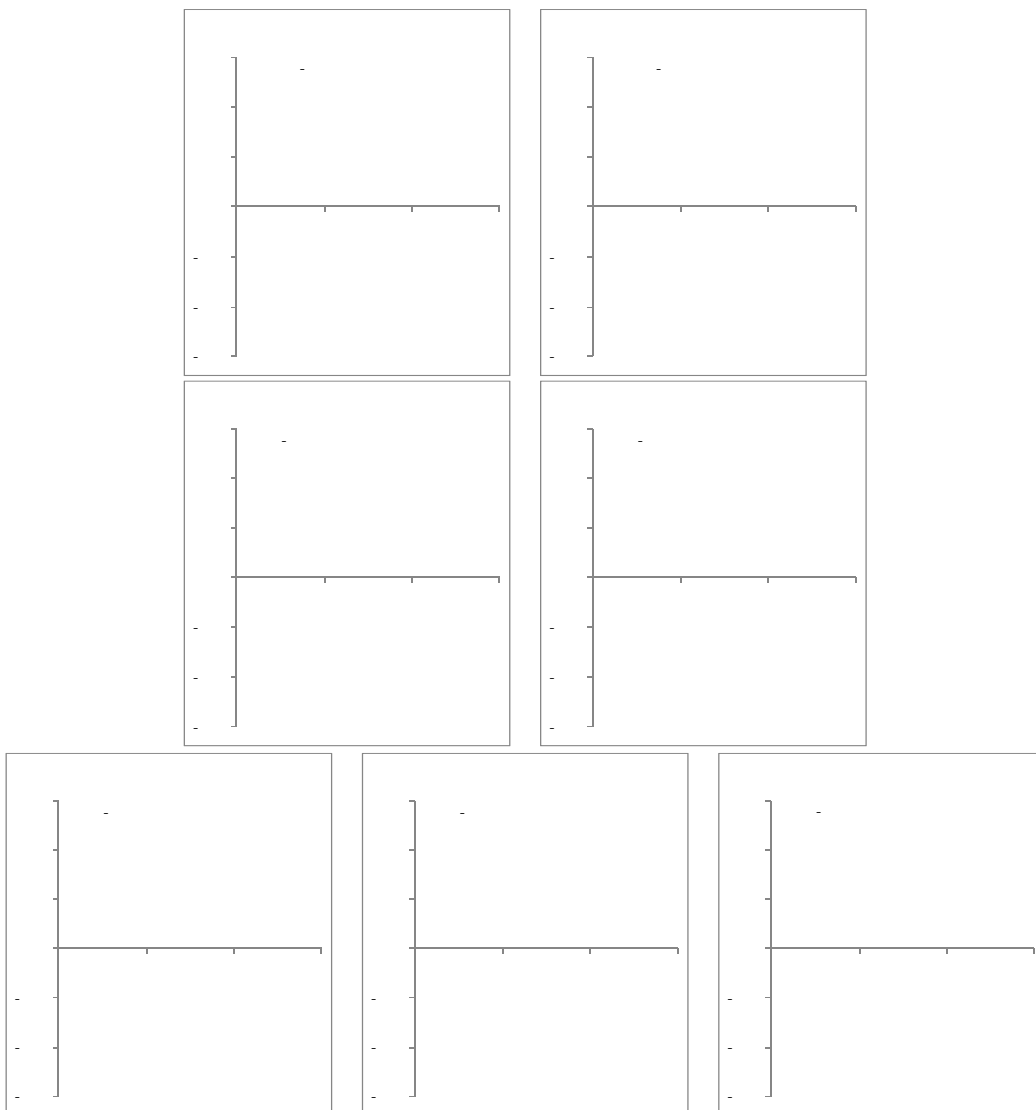


図14 学年別のコーピング（自己評定）下位尺度得点の変化量

●表情認知テストの結果（図15）

統計的検定の結果、小3および中3においては、SEL-8S学習プログラムの実施により表情認知テスト成績の向上が見られた。しかし、小4、小6、中1においては、プログラムを実施していない統制校の方が、SEL-8S実施校以上の向上が見られた。結果のまとめを表9に示す。



図15 学年別の表情認知テストの変化量

表9 表情認知テストの結果まとめ

	表情認知
小3	○
小4	×
小5	
小6	×
中1	×
中2	
中3	○

※「○」はポジティブな結果、「×」はネガティブな結果を表す。

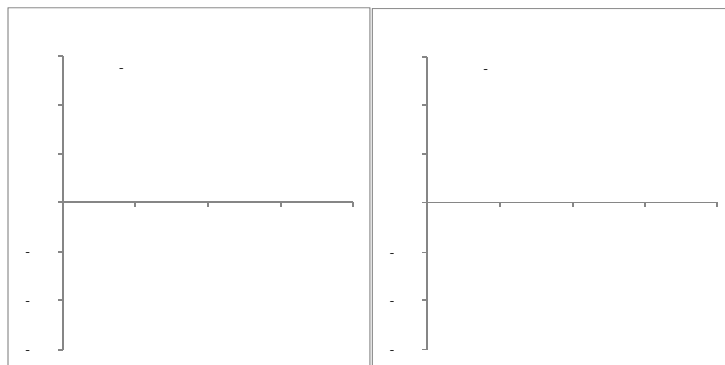
●状況理解テストおよび危険予知テストの結果（図16）

統計的検定の結果、中1においては、統制校の方が良い成績変化が見られたが、それ以外の学年では、SEL-8S学習プログラムを実施することで、状況理解テストもしくは危険予知テストの成績変化に良い影響が見られた。したがって、状況理解能力と危険予知能力では、SEL-8S学習プログラムの効果を実証することができたといえる。表10に結果を示す。

表10 状況理解および危険予知テストの結果まとめ

	状況理解		危険予知	
	感情理解	状況理解	危険予知	対処方略
小3			○	○
小4	○	○	○	○
小5		○		
小6	○	○	○	○
中1	×	○	×	×
中2	○	○		○
中3	○	○		○

※「○」はポジティブな結果、「×」はネガティブな結果を表す。



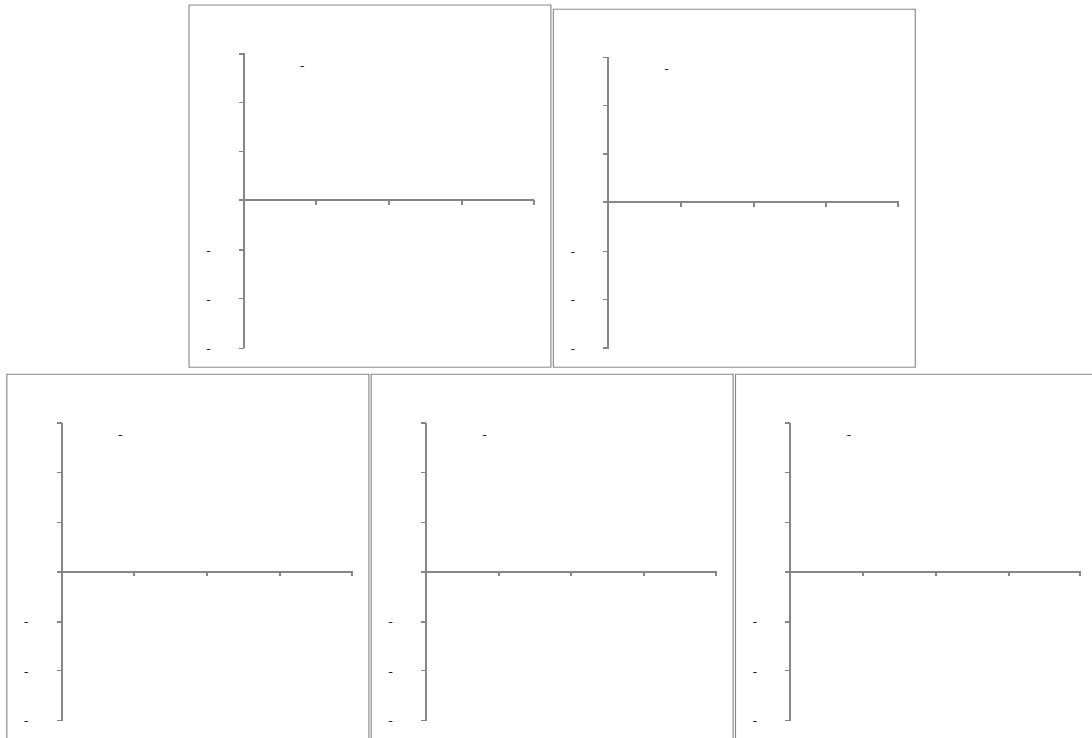


図16 学年別の状況理解および危険予知テストの変化量

●小中学校におけるSEL-8S学習プログラムの効果のまとめ (表11)

表11 小中学校におけるSEL-8S学習プログラムの効果のまとめ

	教師評定					自己評定														
	規範意識		対人関係能力			① 規範意識		② 自尊感情			③ 対人関係能力			④ コーピング			⑤ 状況理解		⑥ 危険予知	
	規範遵守	規範向上	他者感情の認知	自己感情の制御	自己感情の表現	規範遵守	規範向上	自尊感情	他者感情の認知	自己感情の制御	自己感情の表現	サポート希求	問題解決	気分転換	表情認知	感情理解	状況理解	危険予知	対処方略	
小1		○		○		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
小2	○	○	○		○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
小3	○	○				○	○					×		×	○			○	○	
小4	○	○	○	○		○	○								×	○	○	○	○	
小5				×	×	○	○	○				○					○			
小6		○	○	○	○		○	○				×			×	○	○	○	○	
中1		○		×	×			×				×			×	×	○	×	×	
中2		×	○	○		○										○	○		○	
中3	○	○	○	○		×	×	×	×			×		×	○	○	○		○	

全体を概観すると、良好な結果が得られ始めている。特に、教師評定の評価は実施校の変化量が高く、先生方が効果を実感していることがうかがえる。また、状況理解や危険予知など、より日常場面で発揮される能力に関しても良好な結果が得られており、SEL-8S学習プログラムの実施によってこれらの能力が高まったと言える。

一方、自己評定の人間関係能力については、全学年でほとんど変化が見られず、児童生徒自身が感情の理解や統制の変化を実感するまでには至っていないことが予

想される。中学校でも自己評定の結果があまり見られていないが、これは設定した統制校の特徴が一因と考えられる。この統制校では、独自にソーシャルスキル教育を一部で実施し始めていることが判明したため、生徒の自己評定が高いと考えられる。今後SEL-8S実施校においても、学習したスキルを活用できる機会をさらに意図的・計画的に設定することで、よりよい効果が期待できる。

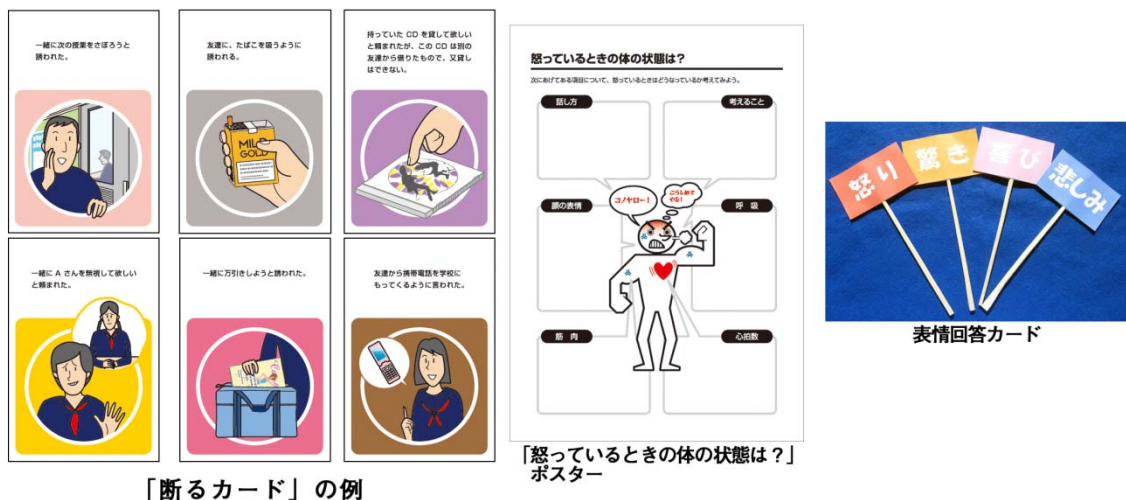
### 3)再犯防止に有効なSEL学習プログラム (SEL-8D) の開発

SEL-8D学習プログラムは、SEL-8S学習プログラム(中学生版)をベースに開発した。開発にあたっては、非行少年の心理的・行動的特性(言語や抽象的事柄の理解能力が低い、行動の制御・抑制能力が低いなど)を考慮し、以下のような工夫を取り入れた。①ロールプレイなど行動的エクササイズを中心に構成、②認知的負担を少なくし覚えやすく思い出しやすくしたゴロ合わせ教示(図17参照)、③理解促進や興味・関心の持続的維持のため視覚的教材の積極的活用(図18参照)である。本年度、SEL-8D学習プログラムは、合計27ユニット作成されている。



ゴロ合わせ教示の例  
 左:「うめのかさ」 右:「あしおみてな」

図17 ゴロ合わせ教示の例



「断るカード」の例

「怒っているときの体の状態は？」  
 ポスター

図18 視覚的教材の例

### 4)児童自立支援施設でのSEL-8D学習プログラムの試行と効果測定

作成したSEL-8D学習プログラムの中から、全体の流れやバランスなどを考慮して11ユニットを選定し、児童自立支援施設「福岡県立福岡学園」の入所児童6名（いずれも窃盗や暴力などの非行経歴を持つ小中学生）を対象に試行した（H22年10月開始～H23年3月終了，1回1時間×全11回）。試行内容一覧を表12に示す。プログラムの試行にあたっては、参加児童の感想やプログラム実施者の所感を毎回記録し、グループ内検討会で改善点を話し合い、次回以降の実施やユニット改良に反映させた。

表12 SEL-8D試行内容一覧

回数	セッション名	目 標	自己への気づき	他者への気づき	自己のコントロール	対人関係	責任ある意志決定	生活上の問題防止のスキル
0	導入面接(個人面接)	○自分の考えや不安、とまどいなどを整理する ○「自分への契約書」を作成し、なりたい自分に向かってどのように取り組むか計画を立てる	○					
1	「どうぞよろしく」	○グループメンバーと親しくなる ○簡潔に自己紹介するスキルを身につける ○他者の自己紹介を観察して参考にしたい点を見つける	○	○		○		
2	「上手な話の聴き方」	○相手が気持ちよく話せる聴き方を知る ○上手に話を聴くスキルを身につける			○	○		
3	「短所を乗り越える！」	○自分自身の長所と短所を知る ○短所の克服法を考える ○短所も長所と同様に成長する糧とできることを知る	○	○				
4	「どうしよう、断れるかな」	○できないことをはっきりと断ることは自分にとっても相手にとっても誠実であることを理解する。 ○相手を不快にさせない「断り方のポイント」を身に付ける				○	○	
5	「友達が怒っちゃった!？」	○友人間でトラブルが起こった際、どのように行動したらうまく解決できるかを考え、トラブル解決の手順に沿って解決方法を導き出すことを学ぶ				○	○	
6	「相手はどんな気持ち？」	○相手の表情を読み取る能力を向上させる ○感情の表現を訓練する		○	○	○		
7	「怒りを知る」	○怒りを感じる状況を知る ○怒りを感じたときの自己の状態を知る	○		○			
8	怒りをぶつけるとどうなる?	○怒りを感じたときに暴力を振るった結果起こることを考え、適切な対処行動を選択する力を身につける			○	○	○	○
9	「怒りをコントロールする」	○怒りをコントロールする手続きをロールプレイし、冷静に適切な行動を選択することを身につける。	○		○	○		
10	「プログラムを振り返って」	○プログラムを振り返り、自分や友達の頑張りを評価する ○頑張りを友達と共有することの良さを知る	○	○				

プログラムの実践効果を評価するため、プログラム試行前（H22年10月）と試行後（H23年3月）において、質問紙テストや能力テスト（いずれも一般小中学校で実施したもの）に加え、社会的スキルに関する質問紙を実施した。社会的スキルに関する質問紙については学園職員による児童の評定も実施した。調査は入所児童全員に実施し、プログラムに参加していない児童を統制グループとした（ただし、学園職員による評定はSEL-8D対象児童のみに実施した）。

以下に、SEL-8D学習プログラム実施グループ（以下、SEL-8Dグループ）および統制グループについて、事後から事前を引いた変化量(=学習効果，事前から事後にどれだけ変化したか)の結果を示す。プラス方向への変化は上昇を表し、マイナス方向への変化は低下を表す。

《質問紙テスト》

●規範意識質問紙の結果（図19）

SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意差があるか否かについて検討したところ（t検定），両グループ間の変化量に統計的有意差はみられなかった。

また，SEL-8Dグループにおいて，プログラム試行前と試行後の間に統計的な有意差があるかについても検討したが，試行前後で統計的有意差はみられなかった。

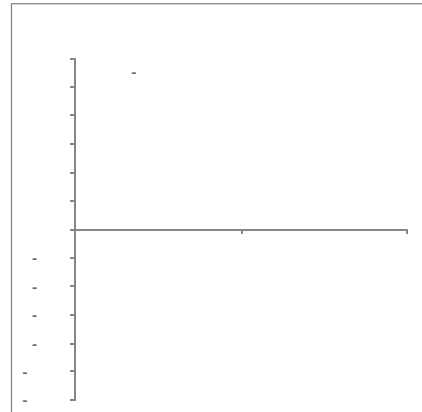


図19 規範意識質問紙の結果

●自尊感情質問紙の結果（図20）

SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意差があるか否かについて検討したところ（t検定），両グループ間の変化量に統計的有意差はみられなかった。

また，SEL-8Dグループにおいて，プログラム試行前と試行後で自尊感情に統計的有意差がみられるか否かについて検討したところ（t検定），プログラム試行後に有意な上昇がみられた。

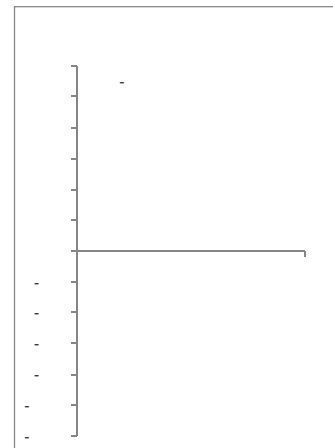


図20 自尊感情質問紙の結果

●対人関係能力（情動的知性：EI）質問紙の結果（図21）

SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意差があるか否かについて検討したところ（t検定），両グループ間の変化量に統計的有意差はみられなかった。

また，SEL-8Dグループにおいて，プログラム試行前と試行後で対人関係能力（情動的知性）に有意差がみられるか否かについて検討したところ（t検定），プログラム試行後の自己感情の制御に有意な上昇がみられた。

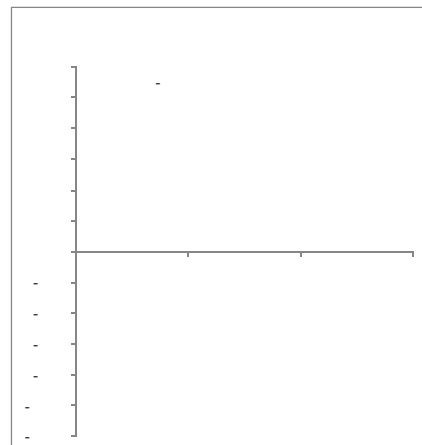


図21 対人関係能力（情動的知性）質問紙の結果

●コピーンク質問紙の結果（図22）

SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意差があるか否かについて検討した (t検定)。その結果、SEL-8Dグループは統制グループよりも問題解決とサポート希求のコーピングをより多く使用するようになったことが示された。

また、SEL-8Dグループにおいて、プログラム試行前と試行後の間に統計的な有意があるかについても検討したところ (t検定)、プログラム試行後の問題解決に有意な上昇がみられた。

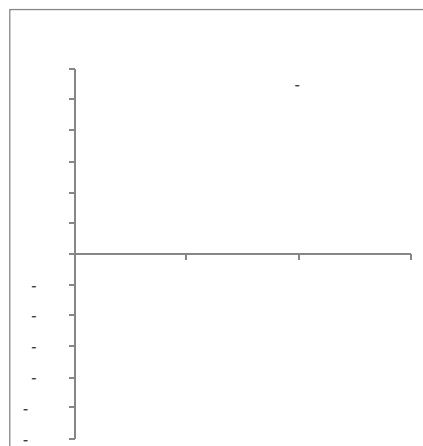


図22 コーピング質問紙の結果

### 《能力テスト》

#### ●表情認知テストの結果 (図23)

表情認知テストは30秒以内に正しく回答できた正答数を指標とした。SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意があるかについて検討した (t検定)。その結果、SEL-8Dグループと統制グループの変化量に統計的な違いはみられなかった。

また、SEL-8Dグループにおいて、プログラム試行前と試行後の間に統計的な有意があるかについても検討したが (t検定)、試行前と試行後の間に統計的な違いはみられなかった。

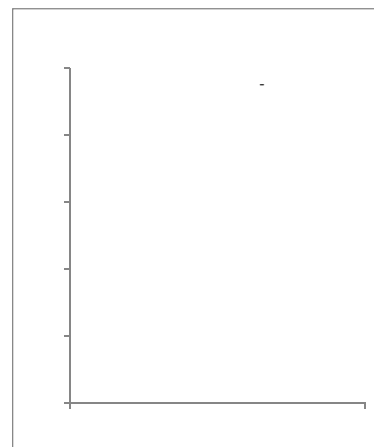


図23 表情認知テストの結果

#### ●状況理解テストおよび危険予知テストの結果 (図24)

SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意があるかについて検討した (t検定)。その結果、SEL-8Dグループと統制グループの変化量に統計的な違いはみられなかった。

また、SEL-8Dグループにおいて、プログラム試行前と試行後の間に統計的な有意があるかについても検討したが (t検定)、試行前と試行後の間に統計的な違いはみられなかった。

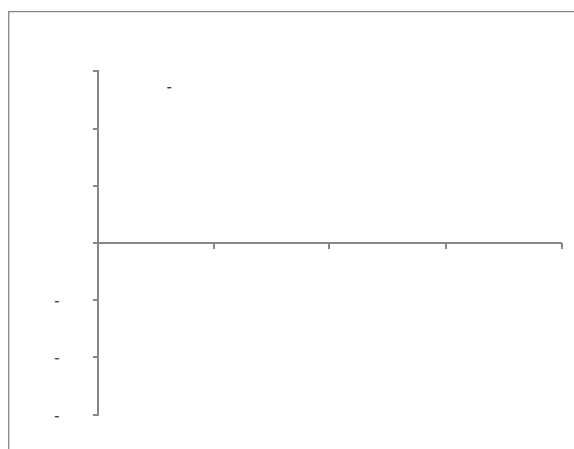


図24 状況理解テストおよび危険予知テストの結果

### 《社会的スキルに関する質問紙》

社会的スキルに関する調査では、「中学生用社会的スキル尺度（嶋田，1998）」を使用した。この質問紙は25項目の質問項目で構成されており，各質問項目(例，困っている友だちを助けてあげる)に対して，“全然あてはまらない” “あまりあてはまらない” “少しあてはまる” “よくあてはまる” の4段階尺度で回答を求めらるものである。

なお，社会的スキルは“向社会的スキル（どれだけ，他者を思いやり他者と関わろうとするか）” “引っ込み思案行動（どれだけ，自分からは他者と関わりを持ってないか）” “攻撃行動（どれだけ，他者の気持ちや都合を考えずに自分のやりたいこと通そうとするか）” の3側面を測定している。

#### ●社会的スキルに関する質問紙（自己評定）の結果

SEL-8Dグループと統制グループの間に統計的な有意があるかについて検討したところ（t検定），SEL-8Dグループと統制グループの変化量に統計的な違いはみられなかった。

また，SEL-8Dグループにおいて，プログラム試行前と試行後の間に統計的な有意があるかについても検討したが（t検定），試行前と試行後の間に統計的な違いはみられなかった。

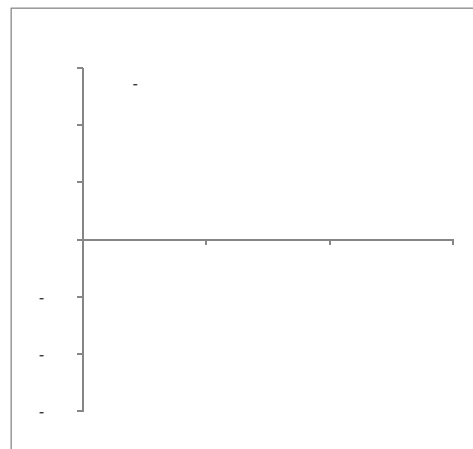


図25 社会的スキルに関する質問紙（自己評定）

#### ●社会的スキルに関する質問紙（職員評定）の結果（図26）

SEL-8Dグループにおいて，プログラム試行前と試行後の間に統計的な有意があるかについて検討したものの（t検定），試行前と試行後の間に統計的な違いはみられなかった。

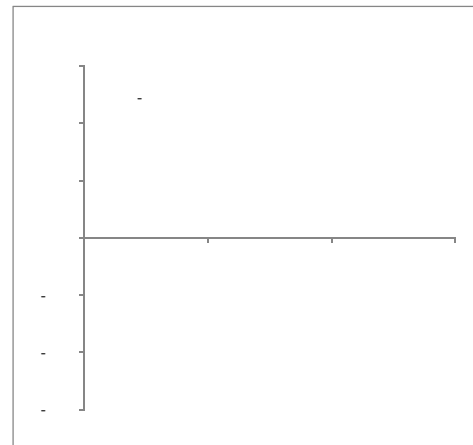


図26 社会的スキルに関する質問紙（職員評定）の結果

表13 児童自立支援施設におけるSEL-8D学習プログラムの効果のまとめ

	職員評定			自己評定																	
	社会的スキル			① 規範意識		② 対人関係能力			④ コーピング			⑥ 状況理解		⑦ 危険予知		⑧ 社会的スキル					
	向社会的スキル	引っ込み思案行動	攻撃行動	規範遵守	規範向上	自尊感情	他者感情の認知	自己感情の制御	自己感情の表現	サポート希求	問題解決	気分転換	表情認知	感情理解	状況理解	危険予知	対処方略	向社会的スキル	引っ込み思案行動	攻撃行動	
変化量(後-前) SEL-8D>統制										○	○										
SEL-8D 事前<事後						○		○			○										

以上の結果をまとめると、SEL-8D学習プログラムの試行により統計的に有意に向上したスキルは、統制グループとの比較では「サポート希求」及び「問題解決」のスキル、またプログラム試行前後での比較においては「自尊感情」、「自己感情の制御」及び「問題解決」のスキルであった。自尊感情が向上した理由は、プログラムでは毎回、メンバーの「よかったところ」をフィードバックしあっており、そのフィードバックが自尊感情向上に結びついたものと考えられる。また「自己感情の制御」については、プログラム第7～9回のアンガーコントロールに関するセッションが寄与したものと考えられる。さらに「サポート希求」、「問題解決」の向上については、プログラム第5・8回の問題解決技法のセッションが寄与したものと考えられる。

上述したとおり、今回の試行で統計的有意差がみられたのは「自尊感情」、「自己感情の制御」、「サポート希求」、「問題解決」のスキルのみであった。この結果は調査対象数が少なかったこと（SEL-8Dグループ5名、統制グループ15名）に一因があるかもしれない。しかしながら、参加メンバーを増やせば、適切にセッションを実施することが困難になる。したがって、SEL-8D学習プログラムの実施サイズとアセスメントについては、今後の検討課題である。

なお、本年度、犯罪・非行に関わる情動的知性（EI）概念を特定するため、小倉少年鑑別支所の協力を得て、入所少年に対し、質問紙テスト（自尊感情質問紙及びEI質問紙）、能力テスト（表情認知テスト及び状況理解テスト）、並びに少年らの属性情報調査（年齢、性別、非行種別等）を随時実施した。各テストは鑑別所職員により実施され、平成23年3月上旬にテスト実施が終了したばかりであり（合計27名分）、現在得られたデータの入力・分析中である。分析については、同年代の健常的グループとの比較や、非行罪種ごとの分類・比較などにより、非行行動とEIの関係を検討する予定である。またこのアセスメントの結果はSEL-8D学習プログラムの改良に反映させる。

5) 来年度に向けた質問紙および能力テストの改良

本年度、実施した結果を分析し、それらに基づいてテストの改良を行い、H23年度の更なる実施に備えた。以下、改良点を順に述べる。

#### 【表情認知テストの改良点】

集計、分析の結果、正答数がかなり高く、個人差が測定できていない可能性が示された。そこで、テストに用いた表情写真の難易度を上げ、個人差測定の精度を上げるために、H23年度実施の表情認知テストには、画像合成技術および項目反応理論を応用することとした。

#### ●表情写真への画像合成技術の応用

本年度使用したテストに用いた表情写真は、表情が明確なものばかりであったため、正答数が高くなったことが考えられた。そこで、真顔写真と表情写真を合成し、その合成率を変化させることで、テストに使う表情写真の回答難易度を上げた（図27）。



怒り100%の写真(本年度実施テストに用いた) 怒り30%の写真(難易度を上昇させた)  
図27 H23年度の表情認知テストにおける改良点

#### ●テストへの項目反応理論の応用

個人差測定の精度を上げるために、テスト作成に項目反応理論を応用することにした。テスト問題作成の際の問題点として、今回のように簡単すぎる問題または難しすぎる問題など個人差を測定するのに不適当な問題を作成してしまう可能性がある。また、テストを受けた集団全体の能力が偶然にも高い集団であったり、低い集団であったりする場合にも、個人差が結果として表れない場合がある。そのような問題を回避して個人の結果を得られるのが項目反応理論である。H23年度に使用するテストには、この項目反応理論を応用して作成したテストを用いることとした。

大学生および小学校児童を対象に予備調査に基づいてテストを構成し、H23年度に使用する表情認知テストを開発した（図28）。



図28 H23年度に用いる表情認知テスト

【状況理解テストの改良点】

本年度は、子どもの回答傾向を見るという目的もあり、自由記述式で回答を求めた。しかし、集計、分析の結果、そもそも記述数に大きな個人差が見られ、記述数の多いものが必然的に得点が高くなり、本来、測定すべき状況理解力以上に言語能力が結果に影響していることが考えられた。そこで、H23年度実施の状況理解テストは、本年度の回答傾向を踏まえた上で、複数選択肢式のテストを構成した。

大学生および小学校児童を対象に行った予備調査結果に基づいて、使用する問題を選び出し、H23年度に使用する状況理解テストを作成した。

【危険予知テストの改良点】

本年度は、状況理解テスト同様、子どもの回答傾向を見るという目的もあり、自由記述式で回答を求めた。しかし、状況理解テストと同様の理由により、危険予知力以上に言語能力の影響が考えられた。そこで、H23年度実施の危険予知テストは、本年度の回答傾向を踏まえた上で、複数選択肢式のテストを構成した。さらに、危険予知とそれへの適切な対処方略が同時に測定できるような問題構成へと改良した。その例を図29に示す。

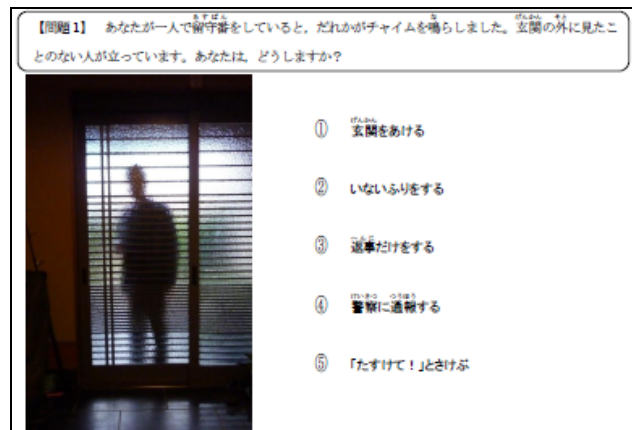


図29 危険予知テストの例

もし、上記の場面から危険を予知でき、さらに適切な対処方略を選択できる場合“2 いないふりをする”を選択すると考えられるが、危険を予知できない場合には“1 玄関をあける”を選択するか、もしくは適切な対処方略を選択できない場合には“4 警察に通報する”を選択すると考えられる。

大学生および小学校児童を対象に行った予備調査結果に基づいて問題を選び出し、H23年度に使用する危険予知テストを作成した。

●本年度の調査結果を受けた、H23年度実施テストの改良点について（まとめ）  
表情認知テストでは、SELプログラム実施による成績の向上が見られなかった。これには、正答数が高く個人差が正確に測定できていない可能性が示された。した

がって、先述の通り、H23年度実施の表情認知テストは、画像合成技術によって問題の難易度を上昇させ、また項目反応理論を応用して測定精度の高い問題を選び出すなどの改良を加えた。

状況理解テスト、危険予知テストでは、1回目よりも2回目の方が成績が下がるという結果が得られている。両テストは自由記述式で構成されていた。自由記述式は自分自身で言葉（回答）を生み出さなければならず、個人への負担が大きい。このテストを繰り返したため、2回目の回答数が減少し成績の低下につながったことが考えられる。したがって、H23年度実施の両テストには、複数選択肢式に改良し、事前に予備調査を行って（調査済み）テスト問題を選び出したものを用いる。

#### (4) 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2010年7月10日	平成22年度連絡協議会	九州大学	平成22年度の関係者顔合わせ、平成21年度の成果報告
2011年1月13日	第3回グループリーダー会議	九州大学	各グループの進捗状況報告、第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムの内容確認、H23年度研究計画検討、来年度の学会発表等の企画について
2010年4月～2011年3月	非行少年研究グループ検討会	福岡大学	非行少年研究グループの検討会で毎月1回開催。グループメンバーが参加し、SEL-8D学習プログラムの構成、スクリプトの検討、実践結果の報告と問題点の検討などを行った。

#### 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

本年度作成したSEL-8S学習プログラムは、様々な教育現場で広く使用できるように、書籍化して出版する予定である。また、本年度は学校単位での実践を行ってきたが、H23年度は自治体単位の実践に向けた計画を立案している。

#### 5. 研究開発実施体制

##### (1) SEL学習プログラム研究グループ

① リーダー名 小泉令三（福岡教育大学大学院教育学研究科）

② 実施項目

A) SEL学習プログラムの作成

B) SEL学習プログラムの実施と評価

##### (2) 非行少年研究グループ

- ① リーダー名 大上 渉 (福岡大学人文学部文化学科)
- ② 実施項目
  - C) 犯罪・非行に関わる情動的知性 (EI) 概念の特定
  - D) 再犯防止に有効なSEL学習プログラムの開発
- (3) 測定技法研究グループ
  - ① リーダー名 箱田裕司 (九州大学大学院人間環境学研究院)
  - ② 実施項目
    - E) 質問紙テスト (主観的自己評定法) の開発
    - F) 能力テスト (客観的評価法) の開発

## 6. 研究開発実施者

研究グループ名：SEL学習プログラム研究グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
小泉 令三	コイズミ レイゾウ	福岡教育大学	教授	総括, 学習プログラム作成
田中 展史	タナカ ノブチカ	福岡市教育委員会	指導主事	学習プログラム作成, 実施校コーディネート
久保田 和子	クボタ カズコ	福岡市立若宮小学校	校長	小学校での学習プログラム実施指導
小松 直人	コマツ ナオト	福岡県岡垣町立岡垣中学校	校長	中学校での学習プログラム実施指導
宮原 高子	ミヤハラ タカコ	朝倉市立立石小学校	校長	小学校での学習プログラム実施指導
山田 洋平	ヤマダ ヨウヘイ	福岡教育大学	時間雇用職員	学習プログラム作成, 実施指導と評価

研究グループ名：非行少年研究グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
大上 渉	オオウエ ワタル	福岡大学人文学部	講師	犯罪・非行に関わる情動的知性(EI)概念の特定, 及び再犯防止用SEL学習プログラムの開発等
松本 亜紀	マツモト アキ	福岡大学人文学部	ポスト・ドクター研究員	犯罪・非行に関わる情動的知性(EI)概念の特定, 及び再犯防止用SEL学習プログラムの開発・実施等
瀬里 徳子	セリ ノリコ	福岡市子ども総合相談センター	子ども相談課 長	再犯防止用SEL学習プログラムの開発・実施指導等

研究グループ名：測定技法研究グループ

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
箱田 裕司	ハコダ ユウジ	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	グループの総括, 客観的測定法の開発
中村 知靖	ナカムラ トモヤス	九州大学大学院人間環境学研究院	准教授	主観的, 客観的測定法によるデータ解析
小松 佐穂子	コマツ サホコ	九州大学大学院人間環境学研究院	学術研究員	主観的, 客観的測定法の開発とデータ収集

## 7. 研究開発成果の発表・発信状況，アウトリーチ活動など

### 7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2010年 10月16日	日本心理学会公開シンポジウム	科学技術館サイエンスホール（東京）	約400名	『頭の良さについて考えるIQとEQ』において，箱田が司会者，小泉が話題提供
2010年 12月4日	日本心理学会公開シンポジウム	鹿児島大学稲盛会館	約250名	『頭の良さについて考えるIQとEQ』において，箱田が司会者，小泉が話題提供
2011年 3月20日	認定心理士会九州支部2010年度公開シンポジウム	福岡アクロス	約50名	『感情的知性は高められるか？』において，箱田が司会者，小泉，大上，小松が話題提供。
2010年 8月29日	日本教育心理学会第52回総会 自主シンポジウム	早稲田大学	約40名	『積極的生徒指導を考える（3）：規範意識・規範行動を育てる』において，小泉が司会者，山田が話題提供

### 7-2. 社会に向けた情報発信状況，アウトリーチ活動など

- ・PJウェブサイト『犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発』，URL: <http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/index.html>，2010年11月15日開設

### 7-3. 論文発表（国内誌   0   件，国際誌   0   件）

### 7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- ① 招待講演（国内会議   0   件，国際会議   0   件）
- ② 口頭講演（国内会議   1   件，国際会議   0   件）
- ③ ポスター発表（国内会議   0   件，国際会議   0   件）

- ・箱田裕司・小松佐穂子・中村知靖，情動的知能とは何か？—情動的知能の主観的・客観的測定法による結果とストレスコーピングとの関係—，第14回日本情報ディレクトリ学会全国大会，福岡大学，9月

### 7-5. 新聞報道・投稿，受賞等

- ① 新聞報道・投稿
- ② 受賞
- ③ その他

### 7-6. 特許出願

- ①国内出願 (  0  件)
- ②海外出願 (  0  件)